

## 平成26年度全国高等学校総合体育大会競技種目別大会視察報告書

視察項目名

視察員氏名

## 【①競技運営状況】

## 【状況等】

- 東京体育館は大きすぎて、施設の参考にはならなかった。墨田区総合体育館はちょうどソルトアリーナと同じぐらいの大きさで、実際のイメージが掴みやすくていい参考になった。
- 本大会に従事している東京都の教員及び生徒は非常に多く、人が足りないという状況ではなかった。さらに春の高校バレー等、大きな大会を経験しているので大会運営には慣れていらっしやる。
- 試合は3ボールシステムであった。コートスタッフも多く、ラインズマンやボールリトリバーの動きも非常に良かった。コートスタッフは試合が始まる直前に入場し、レフリーと共に紹介された。
- アシスタントスコアラーは高校生が担当していた。(ただし、最終日は審判)(写真)



- 墨田区総合体育館の観客席のコントロールは2日目からされていた。

## 【参考にできる点】

- 教員、生徒の動静表を細かく作られていた。
- 日本バレーボール協会への報告はパソコンとスマートフォンの2台を使用されていた。
- 横断幕でコート表示を隠さないように掲示されていた。(写真)



## 平成26年度全国高等学校総合体育大会競技種目別大会視察報告書

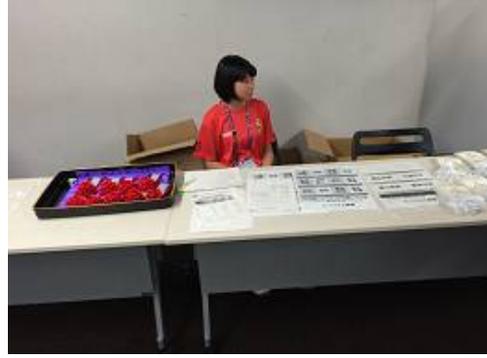
視察項目名

視察員氏名

【②競技会運営状況】

## 【状況等】

- 今大会の競技・運営委員（行政、教員）は約600名、競技・運営補助員（生徒）は約1350名であった。
- 東京は公共交通機関を使って移動ができるので駐車場については全く関係なく、駐車場の人員もいないのでその点は参考にならなかった。
- 受付には高校生4名と教員が3名配置されていた。（写真）



- 開会式会場にはブラスバンドもいた。
- 決勝トーナメントの抽選会が試合の進行が遅かったため19時10分スタートとなった。抽選会はミスができないので、5回リハーサルをされたそうだ。

## 【参考ができる点】

- 開会式の入場行進は56校が行った。後ろから前に行進して椅子に座る形式であった。椅子の並びは写真の通りで、椅子の2列（1チーム一列）列の間は椅子が3つつあった。入場行進自体は約15分であった。優勝旗とトロフィーは開会式が始まる直前に選手に渡されていた。選手が行進を始めるタイミングはチーム名を言われた時。足踏みは内側隣のチームが行進を始めた時。



## 平成26年度全国高等学校総合体育大会競技種目別大会視察報告書

視察項目名

視察員氏名

【②競技会運営状況】

## 【参考にできる点】

○会場入り口のコート表示がわかりやすかった。(写真)



○決勝トーナメント戦の抽選会で、始まるまでの待ち時間に東京を紹介する映像が流れていた。(写真)



平成26年度全国高等学校総合体育大会競技種目別大会視察報告書

視察項目名

視察員氏名

【③設備、競技用具使用状況】

【状況等】

○東京体育館も墨田区総合体育館もタラフレックスが使われていた。



【参考にできる点】

○国旗等の並べ方は写真の通りである。(写真)



○プラカードのデザインは写真の通りである。(写真)



## 平成26年度全国高等学校総合体育大会競技種目別大会視察報告書

視察項目名

視察員氏名

【③設備、競技用具使用状況】

## 【参考にできる点】

○トーナメント表は写真の通りである。かなり大きい。(写真)



○氷の廃棄禁止についての掲示である。(写真)



## 平成26年度全国高等学校総合体育大会競技種目別大会視察報告書

視察項目名

視察員氏名

【⑤その他】

## 【参考にできる点】

- 競技委員長の先生に、  
「先催泉の前例にとらわれず、山口県に合ったもの(従事者マニュアルなど)を作ってやられた方が良い。」  
「競技、総務、審判の連携が大事なので、とにかく連絡を密に取ることが大事だ。」  
「各部署の仕事の住み分けをきちんとするように。」  
とアドバイスを受けた。
- ラインズマンやモッパー、ボールリトリバーの指導は一年前から指導されたそう。ただし、東京は春高バレーなどの大きな大会があるので、研修する場がたくさんある。
- IDカードを持っていない生徒がフロアーや練習会場にいた事例があったらしい。
- 予選トーナメント戦日の午後から東京体育館で皇太子ご家族の行幸があったが、その対応をきちんと準備しておかなければならない。

## 平成26年度全国高等学校総合体育大会競技種目別大会視察報告書

## 【現状】

○山口でのインターハイは二年後であるが、まだ会場や組織体制が完全に決まっていない。

## 【課題】

○東京は施設や人員の数に恵まれており、山口はその逆である。特に人員については教員、バレーボール部員が非常に少ない。二年後は県内バレーボール部の顧問、部員(男女問わず)総出で仕事をしないとなかなか難しいと思う。  
男子部員が特に少ないので、男子の試合のコートスタッフを女子部員にやってもらう必要があると思う。  
国体の時はバスで送迎したが、県内中のバレー部員を山口、防府(宇部)にどう運ぶか、課題である。  
コートスタッフの指導も一年前から各地区単位で計画的に進めていかなければならない。ただし、男子についてはチーム数が少ないので、地区単位レベルではなく県全体でやっていく必要がある。

○なるべく早めに競技、総務、審判の各部署役員を決める必要がある。さらに各部署の責任者が仕事内容を把握し、仕事の住み分けをして少ない人数で効率よく仕事ができるようにしないといけない。さらに人数が少なくても対応できるように、必要でない部分は省略・カットをするべきだと思う。

○山口県に合った従事者マニュアルを作成しなければならない。

○開会式について、今回の東京方式のように行進をさせるのか、それとも前回の福岡方式のように着席させたままにするか、考えなければならない。

○決勝トーナメントの抽選会については開始時間がかなり遅くなることが予想される。抽選会会場から遠い会場で試合のあるチームの監督、キャプテンをいかに早く連れてくるかということも考えなくてはならない。

## 【今後の取組】

○来年の大阪インターハイの視察では事前の抽選会、開会式から閉会式まで、今回以上に細部にわたって詳しく視察しなければならない。

○三年前の山口国体で培ったノウハウを二年後の山口インターハイで生かさなければならない。

○足りない物品を精査して揃えておかなければならない。(審判台、メンバーチェンジ用のパドル等)